



2020年3月期

決算説明

2020年5月29日

株式会社ジャムコ



技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

● この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。

● この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。

● 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。



Contents

SECTION 1

2020年3月期 決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益①(前期比/計画比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益②(前期比)
- 09 | セグメント別 売上高・経常利益③(計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費
- 12 | グループ子会社の状況

SECTION 2

中期3ヶ年計画

- 14 | 経営環境と市場動向
- 15 | 中期ビジョン
- 16 | 中期の課題と対応

2020年3月期 決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益①(前期比/計画比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益②(前期比)
- 09 | セグメント別 売上高・経常利益③(計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費
- 12 | グループ子会社の状況

SECTION

1

【単位:百万円】

	FY18 (実績)	FY19 (計画)	FY19 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)
売上高	84,068	92,600	91,535	7,467	△ 1,064
売上総利益	13,643	12,723	10,444	△ 3,198	△ 2,278
販管費	9,321	9,796	8,636	△ 684	△ 1,159
営業利益	4,321	2,900	1,807	△ 2,513	△ 1,092
営業外損益	△ 1,030	△ 694	△ 629	401	64
経常利益	3,290	2,200	1,178	△ 2,112	△ 1,021
特別損益	△ 263	△ 251	△ 279	△ 16	△ 28
税金等調整前当期純利益	3,026	1,982	898	△ 2,128	△ 1,083
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,910	1,300	605	△ 1,304	△ 694
1株当たり当期純利益 (円)	71.23	48.46	22.58	—	—
売上為替レート (円/USドル)	109.74	107.07	109.34	—	—

(注)計画とは、2019年11月8日の決算発表時の業績予想数値です。

グループ連結 P/L (前期比・計画比)

- 売上高は、前期 840 億円、計画 926 億円に対し、当期実績は 915 億円。
- 経常利益は、前期 32 億 9 千万円、計画 22 億円に対し、当期実績は 11 億 7 千万円。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期 19 億 1 千万円、計画 13 億円に対し、6 億円となり計画に対しては未達。
- この結果 1 株当たり当期純利益は 22 円 58 銭。
- 2019 年度の売上平均為替レートは 1 ドル 109 円 34 銭となり、前期の 1 ドル 109 円 74 銭に対して 40 銭円高、計画に対しては 2 円 27 銭の円安。

2020年3月期 決算の状況

■ 前期比 △21.1億円



連結経常利益の前期比差異要因

- 売上総利益については、内装品事業・シート事業における不適切な品質事案への対応に伴い、安全性確認の技術検証等の調査費用、一時的な生産停止への対策として生産拠点を振り替えた費用、出荷遅延をリカバーするための費用などの追加が発生したことなどにより31億9千万円減。
- 販管費については、保証工事費や販売手数料などの減少により益方向に6億8千万円影響。
- 営業外損益については、為替相場が2019年3月末111円台から2020年3月末108円台まで円高に進んだことによる為替差損益の悪化があったが、支払補償費の減少などから益方向にプラス4億円。
- その結果、前期実績の経常利益32億9千万円より21億1千万円減少し、当期実績は経常利益11億7千万円。

■ 計画比 △10.2億円



連結経常利益の計画比差異要因

- 売上総利益については、第4四半期において新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、内装品セグメントで、エアライン向け製品の一部出荷が翌期以降に繰り延べられたことなどによる売上高減少に加え、シートセグメントで一部プログラムの生産性改善が遅れたことなどにより22億7千万円減少。
 - 販管費については、試験研究費・販売手数料・保証工事費などの減少により益方向に11億5千万円影響。
 - 営業外損益については、計画した為替レートより円安に推移したことから為替差損益が好転し、プラス6千万円。
- その結果、計画の経常利益22億円より10億2千万円減少し、当期実績は経常利益11億7千万円。

2020年3月期 決算の状況

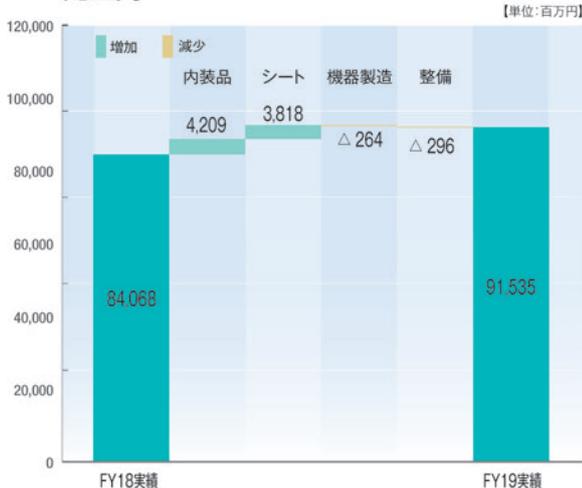
【単位:百万円】

	売上高					経常利益				
	FY18 (実績)	FY19 (計画)	FY19 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)	FY18 (実績)	FY19 (計画)	FY19 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)
航空機内装品	56,869	62,200	61,078	4,209	△ 1,121	6,113	3,200	3,107	△ 3,005	△ 92
航空機シート	12,175	15,100	15,994	3,818	894	△ 3,143	△ 1,500	△ 2,499	643	△ 999
航空機器製造	6,597	6,900	6,333	△ 264	△ 566	110	300	6	△ 104	△ 293
航空機整備	8,426	8,200	8,129	△ 296	△ 70	210	200	567	357	367
その他	0	0	0	0	0	0	△ 10	△ 4	△ 3	5
合計	84,068	92,600	91,535	7,467	△ 1,064	3,290	2,200	1,178	△ 2,112	△ 1,021

(注)「その他」はオレンジヤムコの事業を含んでおります。

2020年3月期 決算の状況

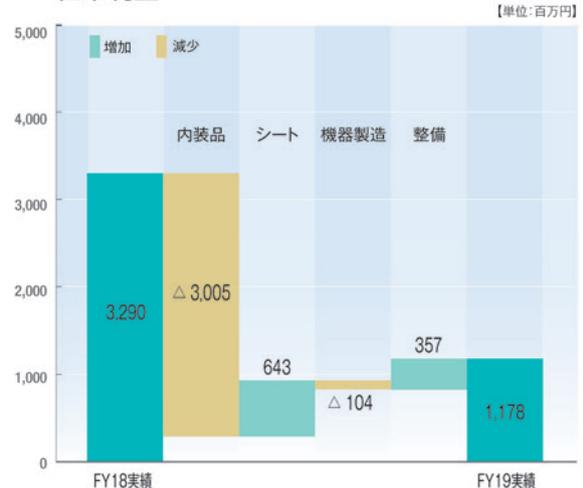
売上高



Point

- 内装品は新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大するまでは、堅調であった航空需要を背景に増加
- シートは当連結会計年度より出荷を開始したビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が進み増加

経常利益



Point

- 内装品は品質事案への対応による追加費用の発生、前期における採算性の良いプログラムの出荷による反動、為替差損の発生により減益
- シートはビジネスクラス・シート「Venture」とスペアパーツ販売の売上高増加により改善
- 整備はエアライン向け機体整備が堅調に増加したことで採算性向上により増加

JAMCO CORPORATION

PAGE 08

セグメント別 売上高・経常利益 - ② (前期比)

■ 売上高

- 内装品セグメントは、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大するまでは堅調であった航空需要を背景にエアバス A350 向け後部ギャレーの出荷などが進み、42 億円の増加。
- シートセグメントは、当連結会計年度より出荷を開始したビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が進んだことなどにより 38 億円増加。
- 機器製造・整備セグメントは、それぞれ微減。

■ 経常利益

- 内装品セグメントは、品質事案への対応による追加費用の発生、前期における採算性の良いプログラムによる反動や為替差損の発生により 30 億円減少。
- シートセグメントは、ビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が進んだことやスペアパーツ販売の増加により、6 億円の改善。
- 機器製造セグメントは、微減。
- 整備セグメントは、エアライン向け機体整備が堅調に増加し、採算性が向上したことにより 3 億円増加。

2020年3月期 決算の状況

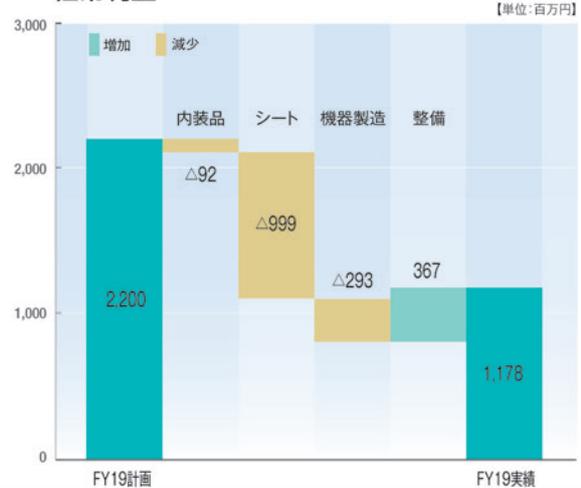
売上高



Point

- 内装品は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、一部出荷が繰り延べられたことにより減少
- シートは一部プログラムの出荷が前倒しになったことにより増加
- 機器製造は炭素繊維構造部材や熱交換器等装備品の一部出荷が繰り延べられたことにより減少

経常利益



Point

- シートは一部プログラムの生産性改善の遅れにより減少
- 機器製造は売上高の減少
- 整備はエアライン向け機体整備が堅調に増加したことで採算性向上により増加

JAMCO CORPORATION

PAGE 09

セグメント別 売上高・経常利益 - ③ (計画比)

■ 売上高

- 内装品セグメントは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、一部出荷が翌期以降に繰り延べられたことなどにより11億円減少。
- シートセグメントは、次年度に計画をしていた一部プログラムの出荷が前倒しとなったことなどにより8億円増加。
- 機器製造セグメントは、炭素繊維構造部材や熱交換器等装備品の一部出荷が翌期以降に繰り延べられたことにより5億円減少。
- 整備セグメントは、微減。

■ 経常利益

- 内装品セグメントは、微減。
- シートセグメントは、一部プログラムの生産性改善の遅れなどにより10億円減少。
なお、シートセグメントでは売上総利益の黒字化を目指したが、残念ながら赤字。然しながら、採算の悪い特注品については、出荷が進み受注残が減っており、今後、収益に貢献するビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が進めば、シート事業の利益は改善する見込み。
- 機器製造セグメントは、売上高減少などにより3億円減少。
- 整備セグメントは、エアライン向け機体整備が堅調に増加し、採算性向上により3億円増加。

【単位:百万円】

科目	FY18末 2019年3月31日現在	FY19末 2020年3月31日現在	増減	科目	FY18末 2019年3月31日現在	FY19末 2020年3月31日現在	増減
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産				流動負債			
現金及び預金	5,822	8,690	2,868	支払手形及び買掛金	8,821	11,394	2,573
受取手形及び売掛金	22,571	31,898	9,327	電子記録債務	8,910	9,551	640
棚卸資産	48,727	52,251	3,524	短期借入金	17,404	36,386	18,982
その他流動資産	3,480	4,890	1,409	1年内返済予定の長期借入金	2,300	1,200	△ 1,100
流動資産合計	80,602	97,732	17,130	前受金	10,675	8,644	△ 2,030
固定資産				工事損失引当金	3,781	3,607	△ 173
有形固定資産	13,988	13,766	△ 222	その他流動負債	7,664	6,164	△ 1,499
無形固定資産	1,750	1,999	248	流動負債合計	59,556	76,949	17,393
投資その他の資産	6,640	6,686	46	固定負債			
固定資産合計	22,378	22,451	73	長期借入金	3,700	3,500	△ 200
資産合計	102,980	120,184	17,203	その他固定負債	9,008	9,361	352
				固定負債合計	12,708	12,861	152
				負債合計	72,265	89,811	17,545
				(純資産の部)			
				純資産合計	30,715	30,373	△ 341
				負債純資産合計	102,980	120,184	17,203

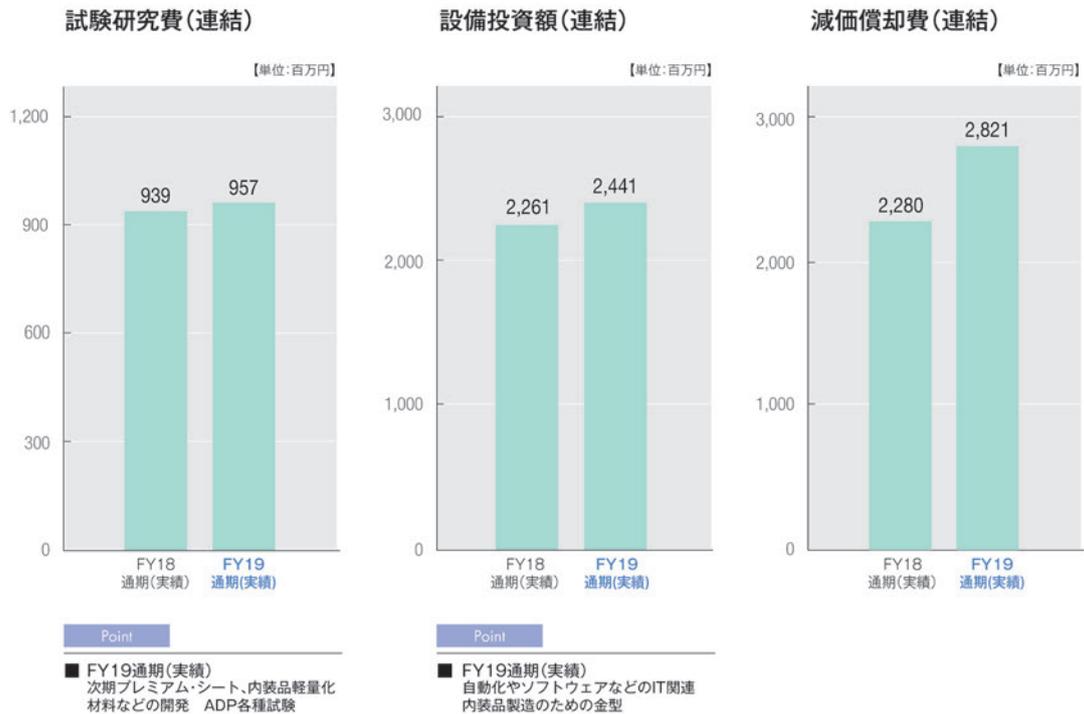
Point

- 受取手形及び売掛金、棚卸資産は内装品の売上増加により増加
- 受取手形及び売掛金、棚卸資産の増加により借入金が増加
- 自己資本比率 29.3% → 24.8%

グループ連結 B/S

- 資産合計は、172 億円増加し、1,201 億円。
増加の主なものは、受取手形及び売掛金が 93 億円増加し、318 億円となり、棚卸資産が 35 億円増加し 522 億円となった。これらは、内装品の売上増加によるもの。
- 流動負債は、資産の増加により主に借入金が増加し、それに伴い 173 億円増加。
- 純資産は、3 億円減少し、303 億円。
- この結果、自己資本比率は 24.8%。

2020年3月期 決算の状況



グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費

- 試験研究費は、前期並みの9億円。内容は、次期プレミアム・シート、内装品軽量化材料などの開発やADP各種試験。
- 設備投資は、24億円。
内容は、自動化やソフトウェアなどのIT関連、内装品製造のための金型が主なもの。
- 減価償却費については、28億円。

【単位:百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニア リング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ
売上高	83,528	4,049	1,203	1,205	21,971	1,528	1,501	807	1,083	720	404	109
営業利益	1,707	65	138	74	△ 507	93	△ 166	55	31	27	16	5
経常利益	1,580	80	155	71	△ 619	132	△ 161	46	31	31	16	5
当期純利益	1,039	63	33	48	△ 447	111	△ 154	18	20	20	10	3

(注1)ジャムコアメリカは一部プログラムの生産性改善の遅れに伴う収益悪化
(注2)ジャムコシンガポールは売上減少に伴う収益悪化

グループ子会社の状況

- ジャムコアメリカの損失は、一部プログラムの生産性改善の遅れが要因。
- ジャムコシンガポールの損失は、売上高減少に伴う収益悪化が要因。

中期3ヶ年計画

- 14 | 経営環境と市場動向
- 15 | 中期ビジョン
- 16 | 中期の課題と対応

SECTION

2

中期3ヶ年計画の業績予想については、新型コロナウイルス感染症による影響を現時点で合理的に算定することが困難であることから、未定としております。今後、開示が可能となった段階で公表いたします。

- 中期3ヶ年計画の業績予想については、新型コロナウイルス感染症による影響を現時点で合理的に算定することが困難であることから、未定。今後、開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

- 世界経済は、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態により、移動制限や感染防止のための操業停止等に伴う深刻な経済損失の発生と景気後退への危機的状況にある。為替変動に関しては、米国政策金利の利下げや各国の経済政策の動向と地政学的リスクの高まりにより先行き不透明な状況にあり、2020年度は予断を許さない状況が続くと見込まれる。
- 航空輸送業界においては、航空需要の急激な減少に伴い、大規模な減便や運休が発生するなど航空会社は甚大な損失を被っている。
- 機体メーカーは、2019年において、ボーイングは、737MAX型機の墜落事故に起因した納入停止の影響や、飛行停止に伴う航空会社への補償費の計上により、通期決算は22年ぶりの赤字となった。一方、エアバスは堅調に納入機数を伸ばし、両社の明暗が分かれた。当社経営に対する機体別動向を見ると、737MAXの生産停止に係わる影響は軽微である。一方、強みを発揮する中・大型機市場においては、新型コロナウイルスの感染拡大による航空需要の低下により、短期的にはボーイング787型機およびボーイング777X型機、エアバスA350型機は減産見込みである。又、航空会社の補用品需要も大幅に低下する見込みであるが、各国の経済活動再開後は航空需要の回復と共に改善するものと思われる。

中期ビジョン

- 航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる

中期経営指標

- 収益性指標：連結経常利益率7%以上
- 効率性指標：連結ROA7%以上
- 配当方針：連結配当性向20~30%を目安とする

新型コロナウイルス感染症の終息時期が不明な状況であり、当面は厳しい経営環境が続くと想定し、将来の航空需要回復に備え、業務のムリ・ムダ・ムラを排除し、更なる生産体制の効率化を推進いたします。
また、航空需要の低下に伴う減産は、すべての事業に大きな影響を及ぼす見込みであり、全社レベルで品質、生産、財務、人財、IT戦略を含めた業務プロセスの改革を推進し、品質向上と共に収益力の向上をめざしてまいります。

- 航空機内装品**
- ① SMS(安全管理システム)の確実な実行と、QMS(品質管理システム)の見直しによる品質管理体制の強化に取り組み、顧客からの信頼回復を行う。
 - ② グローバルな競争環境の変化への対応に加えて、競争力の強化、為替変動リスク対策として、国内外における生産拠点の戦略的な整理に取り組む。
 - ③ 「技術と品質のジャムコ」として、QCD:品質・コスト・納期の更なる向上、新規設計開発の確実な実行、次期内装品事業の成長の種(新規分野・新技術・新材料)へ積極的に投資を行い、競争力強化を推進する。
- 航空機シート**
- ① 過去に受注したカスタムメイドシートにおける初期開発・製造原価超過の影響が残るものの、2021年度中には納入を完了予定であり、黒字化と安定的な収益基盤の構築のため、標準型プラットフォームを活用したビジネスクラス・シート(Venture)の販売拡大に取り組む。
 - ② マネジメント力の向上及びグループ・サプライチェーンの連携強化を図り標準型プラットフォームを活用した次期プレミアム・シート供給体制の整備を行う。
 - ③ ビジネスクラス・シート(Venture)の販売拡大に取り組む一方で、標準型プラットフォームを活用した次期プレミアム・シートの開発により、継続的な成長戦略を実行していく。
- 航空機器製造**
- ① 設計製造能力の向上、NADCAP認定を取得している特殊工程技術力の活用により競争力を強化し、技術的付加価値の高い製品の受注を促進すると共に、付加価値と競争力による受注品目の選択と集中を図る。
 - ② ADP事業は新製品の開発および他企業との協業、新規分野への展開を含めてビジネスモデルの再構築に取り組む。
 - ③ 機器製造の技術力を内装品事業・シート事業へ適用しシナジー効果を高める。
- 航空機整備**
- ① 選択と集中により高付加価値を提供するMRO(Maintenance Repair Overhaul)事業への転換を推進し安定した収益を上げることのできる事業基盤の構築を目指す。
 - ② 整備事業を通じて得た情報を内装品・シート・機器事業へフィードバックすることで、グループ経営におけるシナジー効果を高めることに取り組む。

中期の課題と対応

シート事業については、2019年度から標準型プラットフォームを活用ビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が始まり順調に売上高が増加。品質事案問題や直近では新型コロナ感染症拡大の影響などによりシート事業全体の黒字化は達成できていないが、今後、更にこの「Venture」の受注拡大・販売拡大に取り組み、シート事業の黒字化・安定収益化を図る。